

組合士 アラカルト

長野県保険医協同組合

事務局長

ふなこし 舟越 雄祐さん

職員

なりた 成田 恵子さん

「組合員の身近な協同組合」をモットーにアイデアとネットワークで組合運営中

月々の会費ゼロで様々なサービスを提供

長野県保険医協同組合は、県内の医科・歯科開業医で構成される組合で、現在の組合員数は669人となっている。設立は1991年、同組合の母体でもある長野県保険医協会の「保険医の生活と権益を守る」と共に、国民の立場に立った医療を推進する」という趣旨に賛同した同協会有志61人で立ち上げられた。

同組合では、この趣旨を実践するために、次のような多岐にわたる事業を展開している。組合員に向けては、①医薬品や医科・歯科材料、ユニホーム・生活関連商品などの共同購買事業、②医療廃棄物処理サービスや被爆放射線量測定サービス、院内清掃等の提携事業、③長期休業補償や医師賠償責任保険等の保険・共済事業、そして、④保険医ローンなどの融資、医業経営・新規開業・法人化・スタッフ対策など幅広い相談事業を提供している。組合員は、一口2万円の出資金を出せば月々の会費を支払うことなく、これらのサービスを利用できるのである。

また、昨年から一般市民向けに県内の医療機関検索サイトの運営も開始しており、「健康を考える」というコーナーを設置、そこではサイトに登録している

医師がたとえば妊娠や痔などをテーマにトピックを提供し、サイト内の人気コーナーとなっている。組合としては、「これを読むことで患者さんがお医者さんに親しみを感じてもらって、その医療機関に雇ってもらえたらという気持ちもあります」とのこと。開始してようやく1年、1日あたりのアクセス数は60件程度だが、これから増加していくと期待しているという。

信頼とネットワークで事業を展開中

これらの事業がどのようにして生まれてくるのかは、同組合の事務局運営の特徴の一つを現しているように思える。

まず一つは、組合員である医師や医療機関スタッフとの密な接触、情報交換である。長野県は広い。そのため、組合員が一堂に会することはなかなか難しい。そこで、組合ではテレビ電話といった先端情報通信網を駆使した会議を開催するなど、「顔の見えない関係作り」に心を配っているという。普段の事務局業務でもそれは同様で、何かの折に会うことがあると、「いつも電話でお世話になっていきます」といった挨拶が気軽に交わされ、お互いに安心感や信頼感を持つことができるそうだ。こうした安心感や信頼感に基づき、医師の発案で組合事業が展開さ

れることもあるという。

また、同組合は全国に同様の組織が10箇所で開催されており、その事務局の水戸ネットワークから互いに好評な事業を紹介し、それを自組合事業として取り入れることも積極的に行っている。現在、計画中なのが他県の組合と連携して各県の特産物を紹介する部門を立ち上げること。その中心となっている同組合では、りんごや農産物などの物販を立ち上げている。そして、物販の仕入先については、長野県中央会を通じてそれぞれの生産業者組合の紹介を受けるなど、ネットワークを駆使して事業を展開しているのである。

少数精鋭部隊で今後も「身近な組合」を

組合事業の活発さは以上の通りであるが、これらを切り盛りしているのは、舟越さんと成田さん2人だけの事務局である。舟越さんは同組合設立時から携わり、その際、「協同組合の運営のスキルを身につけるのに格好」と、県中央会の推めもあって受験、組合士資格を取得したという。医療関係業種から入職したという成田さんも「会計業務が私の仕事の中心ですが、やはり組合会計の基礎、そして組合運営全般を知るのによいよ」と、舟越事務局長に推められて「入職ほどなくし



て資格を取得したという。

そういう「体験」の持ち主なので、他県の組合にも組合士の資格を紹介しているそうだが、反響は今ひとつ。「できれば全国中央会さんにももっともつとPRしてほしい」と要望が寄せられた。

八面六臂のお二人に、今後の組合運営についてのお考えを伺ったところ、「当面は厳しくなる医業経営の中で雇用、人の問題に取り組みみたい。厳しい中でも雇用にまつわるルールを守って、スタッフに気持ちよく働いてもらうことで医療機関を発展させていく。そのサポートが課題です」と舟越さん。「異業種組合や他県組合とも連携しながら安心していいものを組合員に提供したい。それから、組合員のニーズを掘り起こして事業に反映していきたいですね」と成田さん。

「組合員の経営サポートに役立つならなんでも自由にできるのが当組合です。それだけに事務局としては、何かあったらとりあえず組合に電話してみよう」と組合員の皆さんに思ってもらえるような組合になれたらいいですね。」

最後に、お二人はこう結んでくださった。